

## 平城京左京三条一坊一・二坪の調査 (平城第515次)

朱雀門のすぐ南東、朱雀大路に面する一角は、緑地公園として利用されていました。平城京の条坊でいえば左京三条一坊にあたります。ここに国土交通省によって平城宮跡展示館(仮称)の建設が計画され、2010年度から継続的に発掘調査をおこなっています。これまでの調査で、奈良時代前期には鉄鍛冶工房や多くの掘立柱建物が営まれ、その後は坪を囲う築地塀を持たない広場のような利用の仕方がなされたことがわかっています。今回は水路の付け替え部分の調査で、南北2カ所の調査区を設定しました。北調査区は東西12m、南北10mの120㎡、南調査区は東西12m、南北12mの144㎡です。調査期間は2013年5月16日から5月31日でした。

どちらの調査区も既設の水路用コンクリートボックスによって遺構面の一部が破壊されていましたが、その他の部分の遺構の遺存状態は比較的良好でした。特に南調査区では一坪と二坪を区切る三条条間北小路とその南側溝を検出しました。また、新たに古墳を1基検出しました。古墳は周壕だけが残っており、墳丘はすべて失われていました。周壕の大きさから径10mほどの円墳であったとみられます。周囲からは円筒埴輪や形象埴輪片が出土しており、出土した須恵器とあわせて古墳時代後期前半(6世紀前半)の古墳と考えています。周囲の埋土の状況から、平城京の造営にともなって墳丘が削平され、周壕が埋め立てられたと考えられます。今回の調査により、平城京造営以前の土地利用のあり方や、京の造営による土地改変の一端があきらかとなりました。

(都城発掘調査部 川畑 純)



古墳の周壕と三条条間北小路南側溝(南東から)